

④ 豊四季台団地第Ⅳ期団地再生事業

受賞機関 独立行政法人 都市再生機構 東日本賃貸住宅本部 設計部
独立行政法人 都市再生機構 東日本賃貸住宅本部 ストック事業推進部

キーワード ミクストコミュニティの拠点、
歩行者ネットワーク、生物多様化

全建賞審査委員会の評価ポイント

豊四季台団地第Ⅳ期の団地再生事業。長期間にわたって建替えを進めている団地であり、今回の街区では緑地や生態系に配慮し、子育て世帯の生活や地域コミュニティの充実を実現するための計画となっている点が評価された。

1. はじめに

豊四季台団地は日本住宅公団（現UR都市機構）により、昭和39年度に管理開始された4,666戸からなる大団地で、環境配慮をコンセプトに、段階的に団地再生事業を実施している。平成20年度に建替事業の第Ⅰ期が完成し、本事業は令和3年度に完成した第Ⅳ期である。

2. 事業の概要

豊四季台の団地再生事業第Ⅳ期においては、「SDGs」「生物多様性」「コロナ禍における新たな生活様式」など社会情勢の変化を踏まえつつ、次世代を担う『子供』をターゲットにした環境配慮に係る取り組みをハード・ソフトの両面から重点的に展開し「ミクストコミュニティ」の形成を目指した取り組みに発展している。

屋外空間では、子供たちが身近な生物と触れ合える空間を創出するため、団地周辺に生息する蝶を調査したうえで、それらの蝶が好む花木を通り沿いに植栽した「蝶のみち」を敷地の中心に横断する形で整備を行った。既存樹木であるケヤキ周りのオープンスペースを中心に、季節の移ろいを感じられる四季の庭を分散的に配置し、「密」にも配慮した交流の場を整備した。

子供たちに豊四季台団地に愛着をもってもらえるように、団地のシンボルとして活用している「Tマーク」のドットモチーフを遊具や塗装面に展開し統一的な外構デザインを形成した。

また、柏市立豊四季保育園児とクロッカスの球根植樹イベントを実施し、新しい景観を一緒につくることで、新しい世代に向けた団地への愛着づくりと住民との交流促進を図る取り組みを行った。

3. 事業の成果

本事業を通し、多世代コミュニケーションの拠点となる豊かな屋外空間を団地内に整備することができた。

さらに「蝶のみち」を当該地区の回遊動線でもある「四季のみち」と連携させる事で高齢者の外出意欲促進につながる歩行者ネットワークを構築した。

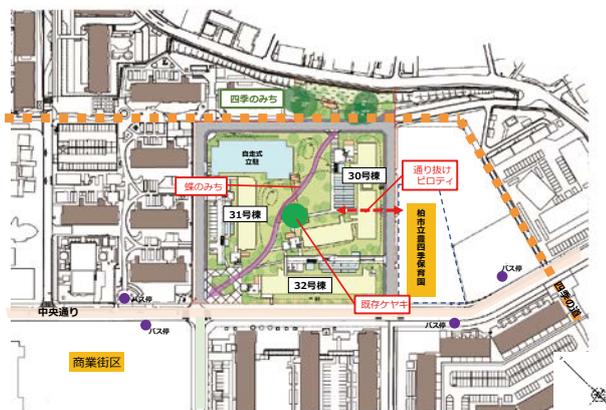
また、園児によるクロッカスの植樹等は地域交流促進に加えて春の団地に彩りを与え、蝶をはじめ数種の昆虫の生息地となり、生物多様化の場としての屋外空間を創出した。



豊四季台団地第Ⅳ期 建て替え住棟の全景



豊四季台団地第Ⅳ期 屋外空間の様子（撮影：栗原写真事務所）



豊四季台団地第Ⅳ期 敷地配置図

4. おわりに

これからも豊四季台団地では、本事業から得られた知見を活かし、団地再生事業を通して「環境と住民との共生」「多様な世代が生き生きと暮れ続けられるまち（ミクストコミュニティの形成）」の実現を目指しソフト・ハードの整備に取り組む。

賛助会員 (株)奥村組